

2022 年の記録



防災キャンプで「停・断・無」を体感する

普及啓蒙／未来へ

いつ来るかわからない災害に備えた取組みを行っています。まずは災害後3日間(援助・救助が本格的に始めるとされている)をどう自力で乗り切るかをテーマに、ハケ岳の秘密基地で防災キャンプを企画して体験してみました。「備えあれば憂いなし」の実践です。

【避難時の服装と装備】

避難・孤立に備えて3日分の食料・懐中電灯・手回しラジオなどを詰めた防災リュックを準備し、瓦礫や割れたガラスから身を守るために、折りたたみヘルメット・革手袋・ヘッドライト・運動靴・長靴・長袖・長ズボンに着替えました。

【停電対策】

スマートフォンやラジオは災害時に重要な情報収集源です。それらを充電できる持ち運び可能な蓄電池を準備しました。ソーラーパネルでも充電できます。

【断水対策】

ペットボトルの水を蓄えることに加えて、給水車による配給や湧き水を蓄えられるように水用タンクを準備しました。

【断ガス対策】

カセットコンロとボンベは断ガス時に役立つアイテムです。また、木を拾い集めて焚き火するためにチャッカマンや火起こし棒を準備しました。

【写真：川辺明伸】



ハケ岳の秘密基地で火育実践

普及啓蒙

今年もハケ岳の秘密基地にて、焼杉づくり、竹炭づくり、竈でゴハン炊き、炭の火起こし、薪ストーブにてピザ作り、CLTトーチでお湯沸かし等の火育(火を使った教育)をティンバライズのツキイチラボ、岐阜県立森林文化アカデミーの木造防耐火講座の一環として実施しました。木材の燃え方を制御して、上手に燃焼熱を利用します。なかなかうまく、着火できないことを経験し、木材は「簡単にには燃えない可燃物」であることを実感してもらいました。



安全な木の使い方追求

技術開発／研究

全国各地で大径材(スギ、ヒノキ、ケヤキ)の活用がのぞまれています。でも、ケヤキは、広葉樹のJAS規格がなく、準耐火構造の燃えしろ設計ができません。そこで、210mm角以上の柱、180×300mm以上の梁について、1時間準耐火構造の大臣認定取得の技術支援を行いました。また、焼杉を工学的に科学する「焼杉研究会」において、三角手焼きと機械焼きによる製作時のスギ板への加熱状況を測定しました。手焼きが約10倍受熱量大です。



打合せテーブル無垢材化計画

普及啓蒙

今年は、共立女子大学萩生田研究室、東京大学稲山・青木研究室に、桜設計集団の広葉樹コレクションから天板を提供し、打合せテーブルが完成しました。ハードメーブル、ウォールナット、ヤマザクラ、ドイツウヒを組み合わせ世界で一つの天板ができました。これで、腰原研究室、伯耆原研究室に続き4研究室でテーブル無垢材化に協力できました。木に関する研究に取り組む学生達に木材の特性を実体験してほしいとの思いから、毎年、先生方に提案しています。



セミナー講師・執筆1.5本／週

普及啓蒙

今年もたくさんの講演依頼と執筆依頼をいただきました。その数、約80本。木造防耐火分野で、研究、実務、普及啓蒙を仕事にして約20年、「木材を見せながら火事に負けない木造建築をつくる」ための技術が広く一般に普及してきたと思います。WEB講習も減り、対面での講習が増えてきたので、終了後の懇親会でさらに深く親睦を図っています。来年も新たな出会いを求めて全国各地に飛び回りしたいと思います。



木造の火災現場を見て考え・学ぶ

学び

今年も中大規模建築物の火災がたくさん発生しました。木造だから火事になるわけではないですが、構造躯体の分の可燃物が、RC造・S造よりは増えるため火災安全に配慮した設計が必要と思います。

今年は三重県いなべ市の笠間保育園と、福岡県北九州市の巨過市場の火災後、すぐに現地に行きました。いずれも壁や開口部について燃え抜けない設計配慮(適度な区画)が重要と痛感しました。



中大規模木造の防耐火設計支援

設計支援

埼玉県小鹿野町庁舎(イ準耐火建築物)が上棟したタイミングで、工事関係者向けに、「準耐火建築物における防耐火の要点」をレクチャーさせていただきました。



ティンバライズ部活動

普及啓蒙

NPO法人teamTimberizeの活動を楽しんでいます。安井は東北建築視察ツアーを企画、加来は新しくできた放送部に入部して、映像・ラジオの製作をしています。



Fiat500Cが仲間入り

喜び

代々木事務所に、Fiat500Cがやってきました。車があることで行動範囲が広がり、楽しいことが増えました。屋根があき、天気の良い日は最高です。



代々木・ハケ岳・京都で勉強会

学び

恒例の3事務所での木造防耐火勉強会。木材を見せながら準防火構造・防火構造・準耐火構造・耐火構造の大臣認定が取得されたもののリストをつくりました。大好評。



大人の木造・木材視察

学び

今年も各地の知り合いを訪ねながらたくさんの木造・木材の視察に出かけました。素材選びの楽しさを学んでいます。来年は海外にも出かけようと思っています。

